



あったそうです。ことに、従来全く関係がなかった方から、いわゆる「飛び込み」の申し込みがあったことは、インターネットの真価を示すものとして象徴的な出来事です。

更新作業は、わたしと野口さんが分担して行いました。ほぼ1週間に1回程度は更新できたと思います。ただ、実行委員会事務局とのコラボレーション（共同作業）には課題を残しました。

協同集会特設ホームページへのアクセス数は調べていません。ただ、ネットワーク管理者の山田さんによると、協同集会ホームページを立ち上げて以降、労協連のレンタルサーバーへのアクセスカーブが顕著に上がった、との証言があります。アクセス数はカウンターを付ければ直ちにわかることでしたが、今回はそこまで技術と根性が追いつきませんでした。

なんにしる、初めてって大変なことです。われながらよくやったと思ってます。野口さんも、山田さんも。皆さん、誉めてやって下さい。

単なる一歩か？偉大なる一歩か？

にもかかわらず、いまから振り返ってみて、反省点は山のようにあります。

例えば先のHPそのものに関していえば、「協同集会の歴史」「物品販売を希望する方への申し込みフォーム」、「過去の集会の写真特集」などのページを作ることも考えていたのですが、結局出来ませんでした。また準備過程をHPにシンクロさせるという点では、十分やり遂げることが出来ませんでした。

HPの活用という点では、過去の協同集会やヘルパー交流会、国際シンポ、雇用シンポなどの各種催しにご協力いただいた組織や個人の方に広く宣伝し、それらの組織・個人が主宰ないしは関係するHPとの相互リンクを張るといったことや、あるいはメールアドレスを収集し、電子ネットワークを構築するなどという構想（「バーチャル協同ネット」あるいは「e-協同モール構想」）もあったのですが、残念ながら方針倒れに終わりました。

とはいえ個々人の努力には特記すべきものがあったことを言っておかなければなりません。コンテンツ制作作業の中心になった野口さんは、「JA全農」のHP (<http://www.zennoh.or.jp/forum/bbs/enter.htm>)、「福祉チャンネル」のHP (<http://www.fukushi.com/guestbook/custombbs.cgi>)の掲示板に投稿したり、「大学生協連」のリンク集 (<http://www.univcoop.or.jp/member/index.html>) から各単協のメールアドレスを収集してメールを送ったり、獅子奮迅の活躍ぶりでした。研究所事務局長の飯島信吾さんは、参加している「民衆のメディア・メーリングリスト」や「出版ネッツ・メーリングリスト」に情報を発信されています。

情報社会論においては、個人がインターネットなどのツールを駆使することによって、主体の能力を拡張できること、すなわちエンパワーメントされる可能



後。労協連のIT化を進める有力メンバーに育ってきています。

その研究会の共同作業で、2000年12月中旬、一つのHPを立ち上げました。東京・板橋でワーカーズコープ方式で育児・子育てを事業化しようと奮闘している「ワーカーズコープ・あざみ」のHPを制作し、サーバーにアップしました。

もちろん、プロの制作者のようにはいかず、アレコレ試行錯誤はあったのですが、ともかく、ごく普通の人々がごく普通の技術を使って全世界に情報を発信することができるということは実感できたのではないかと思います。「HPも難しくない！インターネットだってもう平気！」。

素人集団が作ったものですので、アチコチに穴があるのは当然で、それがまたインタラクティブなコミュニケーションを呼び起こすことになるのです。情報理論でいう、ヴァルネラビリティです。以下のURLで「HP研究会」の共同作業の成果第1弾を、是非ご覧ください。

<http://ikuji-net.roukyou.gr.jp/>

なお、わたしは労協連加盟組織、あるいは関係組織がそれぞれ労協連レンタルサーバーを利用して、ホームページを立ち上げることが、労協や高齢協の新たな展開にとって非常に有効な方策だと信じています。「徹底民主主義」にしる「情報の共有」にしる、それを現実にする技術、能力、意志を身につけた個人や集団の成長に裏付けられない限り、単なるお題目にとどまるのみならず、やがては抑圧的言説と機構に転化することは20世紀の最大の教訓の一つでしょう。

#### 私的インターネットびっくり体験...予告編...

さて、このJICR.ORG通信も1周年。おっかなびっくり研究所のIT化に取り組んでから1年半ほどになります。なにしろ、典型的団塊世代の「オジンルイ」のわたしですから、インターネット体験は「毎日が発見」の連続（そういえば、この雑誌の名前は『協同の発見』でしたね）。年末から年明けにかけての忙しい時期にもまたまた新しいびっくり体験をさせてもらいました。格好良く言うなら「世紀越えIT体験」ということになりますか。

何事も「初体験はうれし恥ずかし、多きもの」。なにしろインターネットに関しては「毎日が発見」の連続ですから、「私的インターネットびっくり体験」を語らせればネタはつきないのですが、あいにくと紙数が尽きました。あとは次回のお楽しみということにしておきましょう。さて、何が出てくることやら...



# JICR.ORG 通信



手島繁一（法政大学 / 協同総研）

## 次世代インターネットの鍵を握る「二つのB」

新世紀初頭のインターネットの話題は「二つのB」に集中しています。「二つのB」とは、「Broadband」(ブロードバンド)と「Bluetooth」(ブルートゥース)のこと。

「Bluetooth」(ブルートゥース)は、無線通信技術のことで、PCや周辺機器(ルーター、プリンター、マウス、キーボード、スキャナー、デジカメなど)を無線で結び、コードレス環境を実現するものです。また、現在は個人で環境を構築するには、機器が高価(一般的なLAN環境構築でも、5万円程度)なため普及の速度は今一歩なのですが、恐らく今年後半からは価格が劇的に下がり、各機器間通信の主流になっていくものと予想されています。

## 「Broadband」(ブロードバンド)を実現する「二つの方策」

もう一つの「B」、すなわち「Broadband」(ブロードバンド)とは文字通りには「広帯域」と訳されますが、インターネットの世界では、「通信回線の速度が高速で、そのため通信回線を通るデータ容量が大量であること」、簡単に言えば「高速大容量」の通信回路のことをいいます。早くから、次世代インターネットの鍵を握るものとして熱い注目を浴びてきましたが、世紀転換点に符丁をあわせるかのように、ここにきて急速に「Broadband」(ブロードバンド)回線の整備と普及が進んできました。そのため、「2001年はブロードバンド元年」「インターネット常時接続元年」という謳い文句が喧伝されています。

「2005年までに全家庭に光ファイバー網を整備して超高速インターネット網を普及する」ことを国家目標として掲げた「IT基本法」が、昨年11月に制定されたことも一つの追い風になっています。ところが、光ファイバー網によるインターネット接続は、FTTH(Fiber To The

Home)とも言われますが、その行方は依然として不明確なままです。というのも、わが国の電話回線の6割以上はもう既に光ファイバーに置き換えられており、大都市圏では各家庭への電話回線を束ねる「き線点」までは光ファイバーになっているのですが、そこから各家庭への配線には膨大な費用がかかること、またその費用を誰がどのように負担するかの合意が得られていないこと、などの大問題があるからです。いわゆる「ラスト\*ワンマイル」問題です。

そこで、F T T Hが抱える難問を回避しつつ、高速大容量通信を実現する方策が注目を浴びることになったのです。なかでも、C A T V(もともとはCommunity Antenna TeleVisionの略語なのですが、今ではC A b l e TeleVision の略語として通用している。有線テレビ)とA D S L (Asymmetric Digital Subscriber Line、非対称デジタル加入者回線)の二つは、次世代インターネットを実現する最も有力な方策として、急速な普及が見込まれています。

実際、インターネットの先進国であるアメリカでは、C A T VとA D S Lがインターネット接続の主流になっており、パソコンのO Sを握ることによって「パソコン財閥」を築いたMicrosoft 社は、「インターネット財閥」に転換すべく、C A T V局の買収工作に血道を上げています。余談ですが、日本最大のC A T V運営会社であるJ C O M(ジェイコム)はMicrosoft 社の傘下に入りました。

### 私的「Broadband」(ブロードバンド)体験記

実は、私も新世紀を期して(?)「Broadband」(ブロードバンド)の世界に入ることにしました。地元のC A T V局によるインターネット接続サービスの利用料金が大幅に下がったことを契機に、従来の電話回線を使ったアナログ・ダイヤルアップ接続から、C A T V接続に切り替えました。だって、今までは初期費用8万円だったのが、何をトチ狂ったのか2万円に値下げしたんですもの、「これは乗らない手はない」!

イヤ! 速い! 快適! というのが実感。アナログ・ダイヤルアップ接続の場合は、モデムを立ち上げ、それからおもむろにジーコジーコとダイヤルして、ガーだのピーだのといった接続音があってから、「接続に成功しました」というメッセージが出てくるんですね。この段階で、回線やサーバーが混雑していると「回線がビジーです」だとか、「接続が確立できませんでした」などと言われてめげてしまいます。さらにですよ、「接続成功」とのメッセージが出て油断できません。重いページにでもアクセスしようものなら、ページがフルオープンするまで、じっと我慢で



## 「最強の検索エンジン」Googleの登場

インターネットの広大な情報の海を上手に航海するコツの一つは、「検索エンジン」を使いこなすことにあります。「検索エンジン」は「検索サービス」「検索サイト」、英語では「search engine」「search tool」とも呼ばれています。実は、インターネットの中でもっともアクセスが多いサイトは、「検索エンジン」なのです。

この検索エンジンの世界で大異変が起っています。98年に創立された新興の検索エンジン「Google」（「グーグル」と発音します）が、高速で高度な検索機能を武器に急速にシェアを拡大し、あっという間に「最強の検索エンジン」の地位を獲得してしまいました。一日平均アクセス数約3億8500万回と桁違いの実力を誇っていた世界最大の検索エンジンである「Yahoo! USA」は、2000年度から「Google」を検索エンジンとして採用することにし、自らはポータルサイト（インターネットで最初に訪問する、「総合案内」サイト）に特化する戦略に転換しています。

Googleは、2000年9月には日本語版をリリースし、日本語での検索が可能になりました。実際に使ってみて驚くことは、自分が探すキーワードのイメージにきわめて近いサイト、ページを見事に探し出して、検索結果の上位に並べてくれるということです。

なぜこうしたことが可能になるのかということの詮索は措くにしても、従来の検索エンジンと比べて、はるかに優れているのは、以下の点です。

(1)高速であること。Googleは「検索にかかった時間」を表示してくれますが、どんなキーワードであっても、ほぼ0.20秒以内で検索結果が表示されます。

(2)どういう訳かはわかりませんが、ノイズ（雑情報）がほとんど混入されないこと。

例えば、下記の表をご覧ください。下記の表は「協同総合研究所」「労働者協同組合」「高齢者協同組合」という三つのキーワードを各検索エンジンで検索した結果を表示しています。



三つのキーワードに対する各検索エンジンによるヒット件数(2001/3/5日現在)\*1

	Google	Yahoo <sup>*2</sup>	goo	infoseek	excite	LYCOS
協同総合研究所	80	87	87	93	242	1824
労働者協同組合	392	469	469	444	419	1663
高齢者協同組合	332	351	351	251	292	3583

\*1 全て、日本語ページのみを対象にした検索。

\*2 Yahoo Japanの「ページ検索」での検索結果。

例えば「協同総合研究所」というキーワードで拾った件数を見てみると、Googleでは80件、LYCOS(「ライコス」と発音します)では1876件になっています。それだけを見ると、より多くのページを拾っているLYCOSが優れた検索エンジンであるかのように思えます。

でもそれは「常識の間違い」なのです。LYCOSが拾った件数の中には、例えば「生協総合研究所」「三菱総合研究所」「観光総合研究所」などが混入しており、しかもそれがランキング上位に表示されています。つまり、ここでは「

総合研究所」を優先順位第一位として拾っていて、その関連のサイトやリンク先を拾い上げた結果が1876件という驚くべき数字(?)になっているのです。

これに対して、Googleの80件は絶対数は少ないのですが、ノイズがほとんど混入していません。つまり、自分が目的とする情報により適切な情報を拾ってくれる、精度が高い検索エンジンであると言えるのです。Yahoo! Japan、goo、infoseekもGoogleとほぼ同程度の検索件数になりましたが、これもノイズが少ない=精度が高い、という風に見るべきでしょう。なお、Yahoo! Japanとgooは三つのキーワード全てで同一の件数ですが、これは、Yahoo! Japanがgooを検索エンジンとして採用していることの結果であり、実は同じものなのです。

(3)Googleが他の検索エンジンと最も違うのは、「キャッシュ機能」を持っていることでしょう。「キャッシュ機能」とは聞き慣れない言葉ですが、要するに、かつて存在したけれども、何らかの事情で今ではなくなっているサイトやページを見ることができる、ということです。例えば、わがJICR.ORGで言うと、2月下旬にトップページの模様替えをしたのですが、「キャッシュ」という文字をクリックすると、模様替え前の「懐かしい」トップページを見することもできます。田中康夫知事が誕生した後と前では長野県のHPはどう変わったのか、などなど追跡が可能です。はまると怖ろしいのですが、使いようによってはかなり面白いことが出来そうです。

(4)キーワードに対応する公式サイトを一発で開いてくれます。インター

ネットを利用している方はよく経験することですが、公式HPを一発で当てることは結構難しいものです。今でこそ、「ソニー」だの「厚生労働省」だの「メジャー系」の場合は、ブラウザの「アドレス・バー」にそのままの言葉を日本語で打ち込めば、公式HPを開いてくれるようになりましたが、協同総研だとか日本労協連など「非メジャー系」(?)の場合はそうはいきません。例えば協同総研というキーワードを打ち込んで、多数でてくる検索結果一覧から「勘に頼って」公式HPのトップページを見つけるか、それとも検索結果一覧に表示されているページを一つ一つ開いてたどり着くか、いずれにしてもかなりの「熟練」と時間を必要としたものでした。

Googleの場合、探したい組織なり団体名をキーワード欄に打ち込んで、「I'm Feeling Lucky」というボタンを押せば、どのような組織・団体であろうが、ほぼ間違いなく公式HPのトップページを開いてくれます。わたしのような、もっぱら「非メジャー系」(?)組織・団体を相手に商売している人間にとっては、この機能は大変助かります。

GoogleのURLは、<http://www.google.com/>

### 複数の検索エンジンを同時に使う

各検索エンジンにはそれぞれ特徴があり、ひとつの事柄やキーワードを複数の検索エンジンでサーチしたい場面があるでしょう。こうした場合、各検索エンジンを一回一回開いたり閉じたりして探すのはかなり面倒です。

ここで役立つのが「メタサーチエンジン」です。「メタサーチエンジン」とは、ある特定のキーワードに対して複数のサーチエンジンを同時に使って、一気にサーチをかけるものです。前述の表は「メタサーチエンジン」を使って検索したものです。

国内の代表的な「メタサーチエンジン」を紹介しましょう。

\* search desk <http://www.searchdesk.com/>

\* WAKANO <http://www.wakano.co.jp/>

\* ナレッジエリーサーチ <http://kd.iws.ne.jp/kms/kqs>

\* メッチャ検索エンジン <http://bach.seg.kobe-u.ac.jp/metcha/>

付録として、検索に役立つ参考書を二つだけ上げておきます。

\* 別冊宝島編集部編『もっと使える！インターネット検索術』宝島新書、2000年4月

\* 関裕司『インターネット 最強の検索術』リブロス、2000年12月



# JICR.ORG 通信



手島繁一（法政大学 / 協同総研）

## 「研究所たより WEB 版」を新設

紹介が遅れてしまいました。てっきり、「お知らせ済み」だと勘違いしていましたが、わたしの思い込みでした。申し訳ありません。

なんの話かといえば、「研究所たより WEB 版」というセクションを JICR.ORG 内に新設したということです。昨年 12 月 20 日の更新から掲載しています。

もともと研究所の日常活動については、機関誌『協同の発見』に「研究所たより」として掲載することで会員の皆さまにお知らせするという手段を取ってきたわけですが、字数の制限があって十分に情報を載せることが出来ないという問題がありました。さらに大きな問題は、月刊誌掲載記事ですから情報の鮮度が落ちることです。月 1 回、しかも機関誌発刊時点では 2 カ月ほど以前の情報ということになるのですから、到底 IT 革命の時代にふさわしいとは言えません。「研究所の活動が見えない」といったお小言が出てくるのも、一つはこうした貧弱な広報手段しか持ち合わせていなかったことによるものです。

そこで坂林専務が考え出したのが、研究所の日常活動をメーリングリスト (ML) 上で発信するということでした。題して「研究所た

より ML 版」です。昨年の総会 (7 月 1 日) 後に創刊号が発信されました。

なるほどこれは Good Idea! ではありません。ただ残念ながら、ML 参加者は 50 名程度ですから、情報の伝達範囲は限られてしまいます。会員の 10 分の 1 にしか伝わらないという問題点があります。

次はわたしの出番です。会員の中には ML には参加していなくても、インターネットを利用できる方はたくさんいるはずで、それならば、「研究所たより ML 版」を Web Site にそのまま載っけてしまえばいいのでは。そうすると、インターネットで JICR.ORG にアクセスするだけで、研究所の活動がリアルタイム (^\_^;) でわかるわけですから...。ということで、遅ればせではありますが、昨年末以来「研究所たより WEB 版」が JICR.ORG に掲載されることになったのです。

「研究所たより ML 版」の発信は不定期ですが、5 月 7 日付最新号で通算 50 号を記録しました。10 カ月で 50 号ですから、月平均 5 号は発行されている勘定になります。月 1 回、2500 字に限定される「研究所たより紙 (機関誌) 版」に比べて、情報の速報性、柔軟性、情報量の豊富さなどの点において、インターネットを利用した「ML 版」「WEB 版」の優位性は明らかです。

なお、坂林専務による「ML 版」は可及的速

やかに「WEB版」に仕立て上げてJICR.ORGに掲載するよう努力していますが、時としてタイムラグが生じることがあります。つまり、「ML版」は発信されているのですが、「WEB版」の掲載が遅れるという事態が生じることがありますが、その責任はもっぱらわたしにあります。サボっているわけではないのですが、なにしろ多忙かつ低能力なもので、皆さまには温かく見守っていただけよう、お願い申し上げる次第です。

「研究所たよりWEB版」へは、JICR.ORGのトップページからも入れますが、直行するのであれば、以下のURLをご利用下さい。

<http://village.infoweb.ne.jp/~fvgn6520/tayoriweb/index.html>

#### 【図1 「研究所たよりWEB版」目次ページ】

協同総研 10周年記念集会の特集ページを掲載

協同総合研究所の設立10周年を祝う記念集会在、3月24日、東京・虎ノ門「パストラル」で開かれ、会員など80名が参加しました。「地域に芽吹く協同の営みを交流させよう」「現代における協同の意味と可能性を問おう」「実践者と研究者が協同した『働く人びと＝市民の協同総合研究運動』のセン



ターになろう」との大きな目標を掲げてスタートし、10年。社会情勢が刻々と変化し、協同の意味がますます重要になり、「協同労働の協同組合」の法制化運動も、本格的に進展する段階に到達したことを、確認し喜び合う集会となりました。

集会の模様は『協同の発見』誌や日本労協連機関紙『労協新聞』で伝えていますが、JICR.ORGではWebの特長を活かして「写真集」を掲載しました。当日、わたしが即席カメラマンに変身して、買ったばかりのデジカメでバシバシ撮りまくった写真を掲載しています。チョット古くなった情報ではありますが、集会の雰囲気やビビッドに伝えるページになっていると思います。一度ご覧ください。

<http://village.infoweb.ne.jp/~fvgn6520/10album/>

また記念集会に参加された社民党の谷本たかし議員のあいさつが、氏のホームページに掲載されています。わたしが多忙を理由に各氏のあいさつの掲載をサボっているうちに、いち早く載せられてしまったのですね。「うれしはずかし」というべきか、この辺がインターネットの醍醐味ではあるのでしょうか。



ところで、彼らに携帯電話の使い方を聞いてみると、通話と並んで「メールで利用している」という答えが多かったですね。さすがに、「Webサイトを見る」という使い方をしていない学生はほとんどいませんでした。実はわたしも昨年末、携帯電話を「iモード」対応機に買い換えたのですが、ブラウズ機能＝「Webサイトを見る」はいまいち利用しにくいし、利用価値があるコンテンツがまだままだの感がします。

そういうこともあってか、学生自身はインターネットを利用しているという自覚がないのです。インターネットといえば、「Webサイトを見る」ことだと勘違いしているからだと思います。メールも立派なインターネットの利用術なんです。「あなた方は、もうすでにインターネットの世界の市民なんだ！」と言ってあげました。

「インターネット接続機能」を持った携帯電話の発売は1999年2月22日のことで、「iモード」対応機が先陣を切ったわけです。そ



れからわずか2年あまりで「iモード」機だけで2000万台、「インターネット接続機能」を持った携帯電話全体では3000万台が普及するようになったのです。

わたしの考えでは、「iモード」によって携帯電話のイメージは一変したと思います。「iモード」発売当時は「携帯電話にパソコンが入った」と言われたように、「インターネットもできる電話機」というイメージでした。ところが今では「電話もできるインターネット端末」と、イメージが逆転しているのです。

そのことを象徴的に示しているのが、電車の中での風景の様変わりです。携帯電話が爆発的に普及しだした頃は、電車内での携帯電話の使用が社会問題になりました。特に若者が傍若無人に電車の中で電話する事が世間の非難的になりました。ところが、わたしの主観的な観測かもしれませんが、昨年頃から、電車の中はミョーに静かになったような気がします。そう思ってふと見回してみると、若者たちは携帯電話をにらんで無言でテンキーを打っているんです。電車内で携帯電話を耳に当てて大声で話しているのは、今ではビジネスマン風か、オジサン族がもっぴらになっているんです。

「通話から通信へ」、電話の利用形態が確かに変わりつつあることを示す好個の例です。

話が脱線しましたが、わがJICR.ORGも「iモード」、「EZ Web」、「J-sky」対応のサイトを立ち上げることが必要になっています。話題のイチロー選手ではありませんが「JICR.ORGも変わらなくちゃ！」。ちょっと古いか(^\_^;)??





## JICR.ORG 通信



手島繁一（法政大学 / 協同総研）

### 「Lモード」が本格始動

かねてから関心が持たれていた「Lモード」サービスが、6月29日から始まりました。

「Lモード」とは、家庭にある固定電話（いわゆる電話です。携帯電話の普及によって、従来の電話がこういう呼び方をされるようになったのです）から、インターネットに接続できるサービスのことで、NTT東日本とNTT西日本がサービスを提供しています。

両社が6月20日に発表した資料によると、「Lモード」サービスの概要は以下のようになっています。

#### (1) 約200の公式コンテンツが提供される。

Lモードで閲覧できる公式コンテンツは、天気予報、マネー、グルメ/タウン情報、子育て/教育、健康/医療/介護など、地域に密着した情報を中心に17分野、約200サイト。20日の記者発表会では、事例として第一勧業銀行、すかいらーく、東芝けあコミュニティ（東京都港区）のサイトのデモを報道陣に公開しました。第一勧業銀行はLモードのサイト上で預金残高の照会、振込・振替のほか、宝くじの購入、当選番号照会などをできるようにしています。すかいらーくは同社が

経営する各レストランのメニューの出前を、これまでの電話とWebサイトに加え、Lモードからも受け付けるようにするというのです。また、東芝けあコミュニティは世帯主が30代～40代の家族を対象にした情報提供サイト「たんぼぼママ」と、老人介護についての情報を提供する「けあコミュニティ」を開設すると発表していました。

NTT東西では今後約2ヵ月に1回程度の割合で公式コンテンツを追加していく計画であるということです。

#### (2) メールも使える。

また、ユーザーは自宅の固定電話から電子メールの送受信もできるようになります。Lモードでは、最大2000文字のメールの送受信が可能になります。メールアドレスは初期設定では「電話番号@pipopa.ne.jp」ですが、サービス開始後はユーザーが自分で固定電話から変更可能です。なお、現在、iモードなど携帯電話によるインターネット接続サービスで問題になっている迷惑メールへの対策として、Lモードでは30件までアドレスを登録し、メールの受信を拒否できる「迷惑メールおことわり機能」（無料）を用意した、とのこと。

#### (3) ICカード公衆電話でもサービスを利用

できる。

さらに、Lモード加入者は街頭に設置されている ICカード公衆電話からもサービスを利用できます。ただし、テレホンカードのほかにも専用のLモードカード(1枚500円)が必要です。ユーザーは ICカード公衆電話にこれら2枚のカードを挿入し、暗証番号を入力すれば、Lモードのコンテンツや自宅の電話宛のメールを見ることが出来ます。

(4)さて、料金は？

サービスするには、月額利用料300円と接続時間に依じた通信料のほか、各コンテンツの情報料(月額/無料~300円)が必要です。

気になるのは利用者の動向ですが、NTT東西両社によると、サービス開始2週間後の7月12日に加入者が約6000件となった、とのこと。「順調な滑り出しだ」と自己評価していますが、果たしてどうでしょうか。

「Lモード」が目撃されていたのは、インターネットへの接続に新しい可能性が開かれるのではないかと、という期待があったからです。確かに固定電話は今ではほぼ全ての家庭にあるわけですから、これがインターネットの接続端末になれば、ネットの普及は一挙に進むことになります。

わたしも新しもの好きですから、さっそく近くの家電量販店に出かけて、「Lモード」対応電話機をアレコレいじってみました。店員さんの話だと、NTTの自己評価とは裏腹に「売れてません！」との冷たい反応でした。

「Lモード」対応電話機は、FAX対応の大型電話機に10cm四方程度の液晶ディスプレ

イが付いたものとイメージされればよいでしょう。サービス内容(HPを見ることが出来る、電子メールが使えるなど)は従来のインターネット対応の携帯電話とほぼ同じです。料金設定も同じような水準です。ということは、インターネット対応の携帯電話(iモード、EZweb、J-sky)で利用していたサービスが固定電話でもできるようになったと言うことです。インターネット対応の携帯電話よりも液晶ディスプレイが大きい、入力するためのボタンが大きい、などの利点がある反面、固定電話であるために「その場」でしか使えない、という弱点もあるわけです。

「これじゃ、ちょっとなぁ」というのが率直な第一印象でした。

メールはともかく、サイトやHPを見るためには、画面の大きさが決定的な条件です。パソコンは操作性には難点があるものの、その点ではすぐれています。携帯電話の画面が小さいという難点をクリアする機器としては、最近PDA(ポータブル・デジタル・アシスタント=携帯電子端末)が目撃されています。ザウルス、パーム、バイザー、クリエ、カシオペアなどの商品名で販売されている機器のことです(名前が漏れたメーカーの方、ごめんなさい)。こういうライバル機器の急増を見るに付け、「Lモード」にはあまり大きな期待を抱くことは出来ません。やはり、家庭用インターネット接続機器の本命は、テレビではないでしょうか。

ブロードバンドの新動向

このコラムでも度々取り上げてきたブロードバンド(高速大容量通信)に衝撃的なサー



ビスが登場しました。ヤフーとソフトバンクは6月19日、ADSL接続サービス「Yahoo!BB」を開始することを発表しました。ADSL接続料金は、下り最大8Mbpsで月額990円( + NTT回線使用料 187 円 )、プロバイダー料金は月額1290円。合計でも月額2280円 (+187円)との「価格破壊」的サービスになっています。

事業者	ヤフー	NTT東西
サービス名	Yahoo!BB	フレッツ・ADSL
下り最大速度	8Mbps	1.5Mbps
上り最大速度	900kbps	512kbps
月額料金	2280円+187円 (NTT回線使用料)	4050円 (別途プロバイダー接続料が必要)

す。

ADSL 接続サービスで先行していたNTTとのサービス内容と料金の比較を下表をご覧ください。

「Yahoo!BB」は、6月下旬から都内で試験サービスを始め、8月1日から本サービスが開始される予定です。

ADSLはCATVと並んで、ブロードバンドサービスの本命と目され期待されてきたのですが、最近では景気の悪い話が増えていました。ADSLサービスのベンチャー企業であった東京メタリック通信が経営危機に陥ったり、三井物産がADSL事業への参入を断念したり、あるいはではADSL事業者の倒産や退出が相次ぐなど。そこで、「Yahoo!BB」は大丈夫なのかと心配してしまうのですが、新サービスの主役であるソフトバンクの孫正義社長は、「(8MbpsのADSLサービスを月額2000円台で提供するのは)たしかに思い切った経営判断だ。接続サービスだけでなく、ポータルサイトの有料コンテンツ、新しい広告など

で、総合的に収益を成り立たせる」つもりだと強気の姿勢を貫いています。ちなみに、「Yahoo!BB」は経営危機に陥った東京メタリック通信を買収しました。したがって、今後ADSLサービスは、「Yahoo!BB」とNTT東西の両雄の闘いになることが確定しました。寡占化によるサービスの低下も懸念されなくはないのですが、なにしろ、ADSLにはCATVという同一領域におけるライバルが存在するほかに、FTTH(光ファイバー)という強力新人が踵を接して追いかけてきていますから、その懸念は無用でしょう。

ともかく、昨年11月に「IT基本法」が成立し、「超高速ネットを5年以内に全国1千万世帯に普及させる」という国家目標が掲げられて以来、インターネットの速度競争は「戦国時代」に突入したと言ってもよいでしょう。わずか1年前にはISDNがもてはやされていたことを考えると、その展開の速さには驚愕の感を禁じ得ません。ISDNはもは

接続種別	接続速度
アナログ電話回線	56kbps
デジタル電話回線 (ISDN)	64kbps
ADSL	1.5Mbps ~ 8Mbps (会社によって差)
CATV	1.5Mbps ~ 8Mbps (会社によって差)
FTTH	10Mbps ~ 100Mbps(会社によって差)

や「中速」あるいは「低速」ネットになってしまいました。

現在利用可能なインターネット接続種別の速度は以下のようになっています。

#### 韓国のブロードバンド事情

話は変わりますが、韓国は世界きっての

ADSL先進国です。韓国の情報通信省は7月13日、ブロードバンド・アクセス・サービスの普及率についての速報値を発表しました。参考までにその内容をかいつまんで紹介しましょう。それによると、ADSL、CATVインターネット、マンション内LAN接続を合わせた総数は6月末時点で625万世帯で、普及率は全世帯の約4割。2000年末に約400万世帯、2001年3月末に500万世帯と、3カ月ごとに100万世帯のペースで増え続けている、とのこと

です。  
625万世帯の内訳は、ADSLが約350万世帯、CATVインターネットが約195万世帯、マンション内LAN接続が約78万世帯。

韓国政府もわが国と同様に「IT立国」をめざす政策を推進していますが、政府・民間の資金を合わせて20兆ウォン（約1兆9000億円）を投資し、2005年までに全世帯の84%に当たる1350万世帯に平均20Mbpsのブロードバンド・アクセス環境を普及させる計画が進行中です。現時点で、米国のブロードバンド・サービス世帯普及率は約10%で、日本は約3%ですから、その意欲と到達点は驚くべき水準といわなくてはなりません。恐るべし、韓国！といったところでしょうか。

### ウイルスに注意

最近、メール悪用型ウイルスの被害が増えています。5月23日には花王が、整髪料サンプルを提供するサイトの登録会員約1万名にウイルス添付メールを配信して、大きな騒ぎになりました。これ以外にもパイオニア、河合塾、ワコー、東京証券取引所などが、やはり会員向けメールサービスでウイルスを配

信する事故を起こしています。

わがJICR.ORGでも、研究所のメーリングリストでウイルス配布の警告が出されたこともあります。幸いなことに、関係者の適切な措置によってウイルス汚染は水際で防がれましたが、今後こうした問題が起こることは充分予測されます。

こうした事件が増えたのは、メール機能を悪用するウイルスが流行しているからです。このタイプのウイルスは、感染するとメールソフトのアドレス帳に登録されているメールアドレス宛に、ウイルスの複製を添付したメールを自動送信するそうです。つまり、感染すると自分の知人や友人にもウイルスを送ってしまうわけで、ウイルスの被害者が、今度は加害者になり、玉突き式に被害が広がるということになってしまいます。

ウイルス感染を防ぐには、まずウイルス対策ソフトをインストールして使うのが基本です。さらに二重三重の防衛策として、プロバイダーのサーバーでウイルスチェックしてくれるサービスを利用することを強くお勧めします。この種のサービスでは、ウイルスが添付されたメールが自分宛に届くと、サーバーで関知して配信をブロックしてくれます。さらに、どこからウイルスが届いたかを知らせる警告メールも送信してくれます。

以下に代表的なウイルス対策ソフトと主なプロバイダーのウイルスチェックサービスを紹介します。まだ利用なさっていない方は、この機会に導入・利用されることを考えて下さい。

代表的なウイルス対策ソフト（価格は、メーカー希望価格。実際はもっと安く買えま

す)

**トレンドマイクロ ウイルスバスター 2001**

<http://www.trendmicro.co.jp/product/vb2001/product.htm>

常駐して監視するリアルタイム検索、メールの添付ファイル監視に加え、悪質Webサイトのブロック機能もある。価格：8500円

**シマンテック ノートン・アンチウイルス 2001**

<http://www.symantec.com/region/jp/products/nav2001/>

常駐機能とメール内容監視機能に加え、スク립ト型ウイルスを未然に防ぐ「スク립ト遮断機能」を搭載。価格：6500円

**マカフィー（発売元：ソースネクスト）  
ウイルススキャン Ver.5.1**

<http://www.sourcenext.com/products/vscan/>

常駐機能、メール添付ファイルの監視など標準的な機能を網羅。スクリーンセーバー作動時に検索する機能もある。価格：8500円

**主なプロバイダーのウイルスチェックサービス**

**BIGLOBE**

<http://email.biglobe.ne.jp/vcheck/>  
シマンテックと提携して「メールウイルスチェックサービス」を提供。料金は1メールボックスあたり、月額料金300円。7月31日まで無料サービスを実施

**OCN**

<http://www.ocn.ne.jp/announce/2001/0606a.html>

トレンドマイクロと提携して「ウイルスチェックサービス」を提供。OCNダイヤルアクセス、OCN ADSLアクセスユーザー向けで、1メールボックスあたり月額200円

**DION**

<http://www.dion.ne.jp/dialup/service/ekonomi/chakushin.html>

インフォサイエンスと提携して「お好み着信サービス」を提供。初期登録料は1メールボックスあたり150円、月額150円。スパムメールの着信拒否設定もできる

**ウイルス情報サイト**

**IPA セキュリティセンター**

<http://www.ipa.go.jp/security/>  
情報処理振興事業協会のセキュリティセンターサイト。最新のウイルス情報や流行の警告、対策法などをいち早く掲載している。

